

イラストレーション－過去の芸術家・現在の芸術家－

Past and Present Artists

石黒 康弘



二代目広重は仕事が減り、生活の為に提灯や扇、果ては外国貿易用のお茶を入れる木箱に作品を手掛けたりした。輸出先のヨーロッパの人達はビックリしてしまう。安っぽい茶箱に、見事な浮世絵が無造作に貼つてあったからである。お茶はともかくも、箱に付いている木版画を集めるのが大ブームとなった。そして、ゴッホをはじめ当時の芸術家達にも多大な影響を与える。そんな事は知る由もなく、広重は明治2年、44歳で亡くなった。

ゴッホは生前全く評価されず、絵も売れなかった。売れたのは1枚だけで、買ったのは弟だった。最後はピストル自殺してしまう。弟も発狂して半年後に亡くなる。作品が認められ出すのは死後10年以上経ってからの事。

ゴッホと一緒に生活したゴーギャンは、それなりに裕福だったのだが35歳で仕事と家庭を捨て、画家を志した。絵は全く売れず、貧困と放浪の日々となつた。タヒチ島の生活にも挫折して、最後はマルケサス諸島のヒヴァ・オア島で孤独のうちに人生を終えた。

昔の芸術家と言うのは、概して存命中は不遇だったりする。死後どんなに評価されても、死んでしまってはしようがない。多分、地球全体がスローライフ状態なので、世に出して・評価され・やがて反応が戻るまでに、随分と時間が掛かってしまったのかも知れない。それでもピカソ位の時代になると、多少はスピードが付いてくる。おおむね、彼は生きているうちに富と名声を享受した。

そして21世紀。ネット社会である。朝起きた事を、昼に

は世界中が知っているのだから驚きだ。二代広重もゴッホも、今だったら死んでしまう前に報われたのかも知れない。その点では、ある意味いい時代になった。

尤も、広重でもゴッホでもない私の様な類にとっては結局、どっちでも、別に変わりは無いのであるが…。



-Past and Present Artists-

Yasuhiro Ishiguro

The works of past artists like V. van Gogh, P. Gauguin, and Hiroshige the 2nd, were appreciated many years after their death. The lack of mass communication during those times hindered the acknowledgment and recognition of their work during their lifetime. Living in the present society where high-speed global communication is possible, enables us to appreciate the exceptional artistic abilities of living artists. However, without the passion and aptitude for the arts, artists can never reap the benefits of the present IT society.